

人とかわることの大切さを 深く心に刻んで欲しいと
願ってきました

今日 3月26日は 修了式 離任式です。きっと立派な修了式、涙の離任式だったのだろうなあ・・・。

この便りを作成している 3月18日 月曜日 12時25分 の未来予想図です。

14名の皆さん。修了おめでとう。

保護者の皆様、1年間ご理解ご協力ありがとうございました。深謝。

平成30年度は、みなさんにとってどんな1年でしたか。

幼稚部の R君、R君、R君。男組3人は、お話ししたい気持ちがたくさん芽生え、笑顔でごあいさつするカッコイイケメン3人組になりました。

遊びたい、自由にしたい、やんちゃしたいと、いろんな「〇〇たい」をもちはじめましたね。いいぞー！先生達をうんと困らせてくださいね。

小学部の S君、Kさん、Kさん。S君は勉強への意欲がぴかいちです。朝自習もいつもきちんとしていましたね。Kさん、自分からあいさつしていましたね。立派です。Kさん、いつも笑顔でみんなのことを気にかけてくれました。Kさん、kさんは高学年です。期待していますよ。

中学部の F君、k君、Nさん。祝う会の企画。内容がとても素敵でした。どうすれば卒業生が中学部生活を振り返って楽しんでくれるか、相手のことをよく考えたのだなあと思います。さあ、義務教育最後の年に向けて、春休み、自己管理を目指そう！気持ち次第です。頑張ってくださいね。

高等部の E君、Sさん、H君、Sさん、M君。

悩むことも多かったけれど、その分いろいろなことに気づき、考え、行動した1年でしたね。みんなのため、自分がやらなきゃという気持ちが、とても嬉しいです。誰かのために役に立ちたい・・・そういう気持ちが自分を大きくしてくれるよ。頼むよ。

みんなが 心身共に 健やかに成長した
背後にはたくさんの人とのかかわりが
あったと思います。

自分に心を寄せてくれた人

いろいろな人に ありがとうを。

修了 おめでとうございます



NYさん 撮影

「 思い 」

高等部主任 乗田珠美



高等部は、集団の中での自分の立場を意識し、自分はどんな人間なのかを深く考える時期だと思います。私は、やや長く聾学校にいて生徒と接してきましたが、どの生徒も様々なことをきっかけとして自分について考え、語りました。個別に話し合ったり、学級や学習グループや学部全体で話し合ったりする中で、自分の心の内を解放したり、友だちの考えに触れて自分を見つめ直したりする生徒の姿に触れることができました。

また、高等部は、社会に出ることを間近にして、これまで培ってきた力を、社会人、職業人としてどう発揮していけば良いのか、学習する時期でもあります。日々の学習や行事の中で礼儀や責任感やコミュニケーションの力を高め、人とかかわることの大切さを深く心に刻んで欲しいと願ってきました。

今年の夏、聾学校の卒業生をたくさん雇用している企業の方のお話を聞く機会がありました。その中で、一番強く心に残っているのは、「話を聞いてわからなくても、わかったふりをするのが一番困る。」という言葉です。「指示したときに、じっと顔を見て頷いているが、わかっていないことが多い。わからなかったことを聞くのが難しければ、わかったことを復唱するだけでも、どこまでわかったのか捉えることができるが。いつも書いてくださいというのではなく自分から確かめる姿勢ももって欲しい。」というのです。

これから生徒が社会でコミュニケーションを取るときに、不確かな理解のままではいけないことを知らねばならない。仕事のミスが減らし自分を助けるには、確認することが習慣になることが必要だと思いました。現場実習の際に、「わからないことをそのままにしないできちんと確認する。」という目標がよく掲げられます。現場実習だけでなく、毎日の授業や生活の中でも意識していかなければ身につかないことだと思います。

毎日の授業の中で、生徒とのやりとりを中心に授業を展開し、「生徒は伝えていることがわかり、意味を理解した。」「伝えていることはわかるが、意味が理解できなかった。」「伝えていることが部分的にしかあるいは全然わからなかった。」のいずれの状態でもやりとりしているか確認することが大切だと思います。生徒が、この3つのどの状態にあるのか確認できる、質問をしてやり取りの質を確かめ、授業のまとめの段階で今日は何を勉強し、何がわかったかを表現させる。また、生活の中で伝えたことを「〇〇は、～ですね。」と生徒が自ら確認するように指導する。こういうことの積み重ねが、職場で指示されたことを確認する態度に繋がっていくのではないかと思います。

コミュニケーションは相互関係で成り立っているので、わかり合えるように互いが歩み寄れば、伝わらなかった部分が気になって、工夫が生まれわかり合える喜びが生まれると思うのです。（そういう私ですが、内面を開く授業をしたいと願いながらも、日々の授業の中で生徒の発言の意味を取り間違えたり、混乱させる質問をしたりして反省する毎日を送っています。）

※ 生徒が前のめりになって考える授業 共にいるとほっとする温かさ どんな時も朗らかに前向きに しなやかに乗り越えていく強さ 長い間ありがとうございました
これからもよろしくお願いしたいと 皆 思っています